

## 学 位 論 文 要 旨

研究題目

Effect of Oral Qing-Dai Medication on Pulmonary Arterial Pressure Levels in Patients with Ulcerative Colitis

(潰瘍性大腸炎患者における青黛内服の肺動脈圧への影響)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学専攻 器官・代謝制御系

循環器病学 (指導教授 石原 正治)

氏 名 織原 良行

**研究背景:** 青黛を内服した潰瘍性大腸炎患者において、肺動脈性肺高血圧症を発症した症例が複数報告されている。しかし、潰瘍性大腸炎患者における肺動脈収縮期血圧 (PASP) と青黛服用との関連を詳細に検討した報告はない。

**研究目的:** 青黛を内服している潰瘍性大腸炎患者における 1 年間の PASP 値の変化を前向き観察研究にて明らかにする。

**研究方法:** 2017 年 6 月から 2018 年 8 月に当院の炎症性腸疾患内科を受診した潰瘍性大腸炎患者で、青黛を内服している 40 症例を前向きに登録した。登録時に身体所見・心エコー図検査・血液検査を施行し、登録から 1 年後に心エコー図検査を再度施行した。1 年後に心エコー図検査が施行できなかった 13 例を除外し、最終的に 27 症例で検討した。

**研究結果:** 青黛を内服している潰瘍性大腸炎患者 27 症例の平均年齢は 44.0 歳で、追跡期間の中央値は 392 日、平均の青黛内服期間は 36 か月であった。全 27 症例の登録時 PASP 値と登録 1 年後 PASP 値に有意な差は認めなかった。(登録時 21.4 mmHg vs 1 年後 21.3 mmHg,  $p=0.802$ )。追跡調査中、21 人の患者が青黛内服を継続し(青黛継続群)、6 人の患者が青黛内服を中止した(青黛中止群)。青黛継続群の患者では、PASP 値は登録時と 1 年後で差がなかった(登録時 21.4 mmHg vs 1 年後 22.6 mmHg,  $p=0.212$ )。一方、青黛中止群では、1 年後に PASP 値の有意な低下を認めた(登録時 21.5 mmHg vs 1 年後 16.8 mmHg,  $p=0.005$ )。また登録時から 1 年後までの PASP 値の変化量は、青黛継続群と青黛中止群の間で有意な差を認めた(青黛継続群 +1.1 mmHg vs 青黛中止群 -4.7 mmHg,  $p=0.004$ )。さらに多変量解析から、PASP 値の上昇には登録時の青黛内服期間のみが影響を与えることが明らかになった。

**研究結論:** 潰瘍性大腸炎患者において、青黛内服と PASP 値の間に関連があることが示唆された。